

「漁業の未来を考える県民のつどい」

石巻シンポ
漁協、学者、消費者
350人



水産特区に怒り、漁業を応援

東日本大震災で壊滅的被害を受けた宮城県の水産の未来を考える集いが3日、木村稔県漁協会長を迎え、石巻専修大で開かれました。漁師、水産関係者を含む約350人が全県から参加し、政府の復興構想会議の提言に盛り込まれた漁業者を押しつける水産復興特区の撤回を求める決意の場となりました。

「つどいは、東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター」が主催。世話人の庄司捷彦弁護士が開会あいさつしました。

網島代表世話人が問題提起

網島不二雄代表世話人が、漁業の復興を考えると題して話し、「漁業権は日本独自の制度。江戸時代から続いているのは合理性があるからだ」と述べました。(写真上)

県漁協・木村会長が報告

木村稔会長は、村井嘉浩県知事が提唱した水産特区について、もともと経団連調査協のシンクタンク日本経済議会在が提言したもので「村井知事が漁師と相談して出したものではない」と指摘。「公平、平等に漁業権を行使できるのは、漁協があるからだ。漁協による漁業権の一元管理がなくなれば安定した生産が維持できなくなる」と訴えました。



水産業者・各界4人発言

つどいでは、水産関係者など4人の方が壇上から発言しました。



石巻魚市場買受人
宇壽山純一さん
「石巻は魚の種類が豊富。必ず復興する」



水産加工ヤマト社長
千葉雅俊さん
「復興には借金を重ねることになる。これまでの債務を棚上げしてもらいたい」



写真家
後藤東陽さん
「今回の『水産特区』をめぐる問題は、民主主義が問われている」



宮城県生協連
加藤房子さん
「消費者としておいしい魚やカキが食べられるように応援したい」

参加者も次つぎ告発

アピールを採択

参加者もフロアでマイクを握り、若い担い手を一生懸命育ててきたのに、特区構想が出た。怒りを覚える「漁協関係者」と、次つぎと声を上げました。日本共産党の横田有史県議も、水産特区をめぐる県議会の動きを報告しました。

「つどいでは、岸壁と漁港の整備、市場を再建し製氷・冷凍・冷蔵・保管・流通の設備など、水産業の基盤整備を政府の責任で進めることを求める」とアピールを採択(裏面参照)しました。

最後に世話人の草場裕之弁護士が閉会あいさつ。漁業者らが壇上にあがって音頭をとり、「漁業権を守るぞ」と全参加者のシュプレヒコールで、氣勢をあげました。



マスコミも大きく報道

「漁業の未来を考える」県民のつどいには、多数のマスコミ関係が取材。地元の新報「石巻かほく」は、水産特区阻止アピール「石巻で漁業の未来を考えるつどい」学者、漁協、消費者ら意見の見出しで一面報道。NHKテレビは、タフのニュースで放映し、河北新報は「水産特区」批判続出(7月4日付)の記事を掲載しました。

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

ニュース 2

2011年7月10日 発行

住所: 〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目5-10 御譜代町ビル305号

電話: 022-399-6907 Fax 399-6925

http://blog.canpan.info/miyagikenmin/

E-mail: miyagikenmincenter@gmail.com

水産業に係る人々の願いにこたえて「地元主体の復興」を進め、「漁業の秩序」を壊す「水産特区」の撤回を求めるアピール

3月11日の大震災と大津波で多くの新鮮な魚介類が食卓から姿を消しました。あれからほぼ4ヶ月。漁師さんたちは「早く海に出たい」と願っています。魚をとる、養殖する、せりにかける、加工する、保管する、運送する、売る、船や漁具をつくるなど、浜のくらしを支え「海の恵み」を届けている人たちが、なりわいの再開と完全な復旧を強く願っています。

海のカレキ撤去を急ぎ、「船を手に入れたい」「漁具・種苗・エサを確保したい」と願う漁師さんたちの意欲と自主性を大切にして、個人でも協同でも立ち上がることができるよう、県と国の支援が緊急に必要です。

私たちは岸壁と漁港の整備、市場を再建し製氷・冷蔵・保管・流通の設備など、水産業の基盤整備を政府の責任で進めることを求めます。「せめてゼロから再出発したい」という関係者の願いにこたえて、これまでの債務を凍結する枠組みをつくることも求めます。

村井知事が、宮城県独自の支援を怠り、打ちひしがれている漁業者を押しつける「水産特区」を持ち出したことは、地元

主体の復興に背を向けるものであり、「漁業の秩序」と海の資源・環境を壊す大問題です。

日本では、狭い沿岸で多様な魚介類を生産しており、漁業の安定的な発展のためには、海を守り、休漁や禁漁で資源を管理したり、操業を調整する役割が必要です。ところが財界・経団連は、地元漁業者と同等の漁業権を企業がもって、企業の勝手な活動と海の開発をやるようにしようとしています。海は国民みんなのもので、乱獲や乱開発はもつてのほかです。

全国のみなさまによびかけます。

「地元主体の復興」に背を向け、「漁業の秩序」を壊す「水産特区」を撤回させるために、ごいっしょに宮城県と政府に声を上げてください。

世界三大漁場の三陸沖に面する宮城県の水産業を再建して、国民のくらしと「魚介類を食べる文化」を再建いたしましょう！

「漁業の未来を考える県民の集い」参加者一同

水産のまち・石巻市で

「7・3漁業の未来を考えるつどい」参加者の感想...一部を紹介します

漁業の実態を知らせたい

塩釜市 S・Mさん

漁業にたずさわっている皆様の大変な苦労、泣きながら聞きました。私として出来ることは、困っている実態をより多くの方々に理解していただき、県、国の政治に訴えてゆきたいと思います。

胸がつまるような思い

女川町 T・Hさん

木村総会長の話は、胸がつまるような思いで聞きました。国や県が船や資材を用意してくれているのでしょうかと話された庄司弁護士の怒りを共有したいと思います。女川でも、漁村、漁港の集約が持ち上がっています。ねらいは「特区」と一体で進んでいるのです。勉強になりました。

海が大好き、海で働きたい

石巻市 T・Wさん

私は専修大学生で意欲的に参加しました。海が大好きで、釣りが大好きな私はこの海で働きたいと思っています。なので、良い就職活動にもなったと考えます。この豊かな石巻の漁業資源を守るために、とても魅力のあった宮城の海に戻りたいと思っています。後継者不足が言われているなかで、私はぜひ海で働きたいです！

大事なことがわかった

宮城野区 N・Oさん

江戸期以来、確立され、守り発展させてきた「営業権」というか、日本の漁業そのものが、危機にさらされているということがわかりました。もう一つ大事なことは、各界には漁業はもちろん産業や生活、くらしとなりわいを守ろう、さらに良くしていこうという人がいる、ということがわかったことです。

役に立つ振る舞いを決心

石巻市 H・Yさん

タイムリーな企画だったと思います。村井知事の「特区」に違和感をもっていました。違和感の中味が解き明かされたことに改めて企画の力をかみしめております。地についた復興、被災者中心の復興に「運動をつくる」「運動を考える」「被災者の願いを届ける」ことに、幾分か役につける舞いを改めて決心させられました。

大きな運動で早く再建を

太白区 T・Yさん

漁協からの報告で被害の大きさ、復興に全力をあげていること。村井知事の提案が、漁業者に相談もせず強権的に進めようとしていること。正しい方向性がよくわかりました。大きな運動で再建を早くしましょう。

本日のつどいは頼もしい

60歳代・女性

「水産特区」とは、地域の復興と言いながら、地域の水産業者を無視した構想であることがよくわかりました。村井知事は、ラジオ、TV、新聞等のマスコミを利用して「特区」の宣伝を大々的に行っています。力が弱い者の側に立つ者にとって非常に不利ですが、本日のつどいを聞いたことは頼もしい限りです。

東北の美徳を失わない

気仙沼市 H・Tさん

東北人の美徳はこの恵まれた風土につちかったものです。漁業特区はその美徳を失う結果を招きそうです。漁師さんはつらい仕事です。そこから自由を奪う考えられない政策です。ただでさえ、津波でがっかりしているのです。どうか元気になれるように廃止してください。

センターの活動が重要

塩釜市 H・Kさん

県内どこでも漁業問題を宮城県としてなんとかしてほしいと切実に思っていることが伝わってきた。この熱い思い、必死の思いを県政にどうとりあげさせられるか、センターの活動が重要だと思った。